

THANKS

(VOL. 172)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成23年10月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-1118
埼玉県所沢市けやき台 1-41-11
TEL:04-2922-1417
E-MAIL : info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「日本一わかりやすい会計の基本① ～会社は何のためにあるのか？」

序章：なぜ、今、「会計」なのか？

近年、私が行う研修の中で「会計の基本」というテーマが急増しています。
もともと私は営業畑。
会計の専門家ではありません。
ちなみに、簿記については、3級さえも持っていません。
また、コンサルタントといえども、金融関係に特に精通している訳ではありません。
それなのに・・・
なぜ、こんな私に「会計」の研修講師を依頼してくるのか？
お客様の話を聞くと、以下の2点が理由のようです。

1. 効率化を求める時代の要請

ひと昔前の日本は、市場の拡大に伴い、売上がドンドン増えていました。
「利益は売上が増えれば、自然とついてくるもの」
経営者の中にも、そんな考えを持っていた方が多かったです。
しかし、今や、そんな時代は終焉しました。
日本においては、少子高齢化が進行し、市場はむしろ縮小傾向。
「物が売れない時代」が続いています。
このような状況の中で、昔ながらのイケイケドンドンでは、当然、限界があります。
「売上が増えなくても、しっかり利益を確保する」
これが、まさに、今の時代の経営のトレンドです。
徹底的に無駄を省いた効率経営。
これを実現するためには、社員ひとりひとりが、しっかりと「利益志向」の考え方にに基づき行動することが大切です。
そして、そのための必須知識が、「会計」の基本。
・いかにして利益を増やすか？
・いかにして資金を効率的に運用するか？
こうした基礎的な知識を、社員にしっかり持ってもらう！
まさに時代の要請です。

2. 実務的で基本的な知識の要請

多くの会社では、「会計」をテーマとした研修で、社内の経理部門の方が講師を務めています。社内のことを熟知していますので、受講者は、その会社特有の話をお聴くことができます。

しかし、どうもピンとこない・・・

その理由は、経理の方の話が、どうしても「簿記」中心になってしまうからです。

「仕訳」と言われても、一般社員の方々は、実際の業務の中で、それを行うことはまずないでしょう。考えてみれば、これは至極当たり前のことです。

「簿記」とは、もともと、正確に帳簿をつける技術。

その業務を担当している経理の方にとっては、無くてはならないものです。

しかし、一般社員が行うべきことは、簿記によって作成された損益計算書や貸借対照表の中から問題や課題を読み取って、対策につなげることです。

もともと役割が違うのです。

料理にたとえるならば、美味しい「野菜」をつくる技術が簿記。

もちろん、農家の方にとっては大切な技術でしょう。

しかし、一般消費者にとって大事なことは、その野菜を使って美味しい料理をいかに作るか？

その「料理方法」こそ、身につけたいことなのです。

私の場合は、上記で言えば、農家出身ではありません。

また、料理人といえども、レストランのシェフのように、凝った料理を作っている訳ではありません。

「基本」を踏まえて、普通の食材で、普通の料理ができるだけなのですが、どうやら、この程度のレベルが普通の人にはちょうど良いみたいです。

ということで、今回から新しい特集がスタートします。

題して、「**日本一わかりやすい会計の基本**」。

ちょっと、大それたタイトルですが、できる限り、平易に「基本」を解説して行きたいと思います。

●会社の目的 ～ 会社は何のためにあるのか？

さて、いよいよ本題です。

通常の会計のテキストであれば、ここでいきなり「損益計算書とは？」となるところですが、本誌は何と言っても「**日本一わかりやすい**」ということを標榜しています。

焦らない、焦らない・・・

まずは、ここで、皆さんに質問します。

「会社の目的は？ 会社は何のためにあるのか？」

と訊かれたら、どのようにお答えになりますか？

「え～～ そんなこと考えたことかない・・・」

なんて言わないでくださいね。

皆さんは、社員として、その会社の目的を果たすために働いているのですから。

まさに、これは仕事をする上での「原点」の質問です。

一般的に「会社の目的」としては、以下のようなことが挙げられます。

1. 社会貢献

まずは、何と言っても社会貢献。いわゆる「世のため、人のためになる」ということです。メーカーであれば、お客様の役に立つような製品を開発・生産すること。小売店であれば、お客様の生活を豊かにするような商品を提供すること。私の出身会社である岩谷産業の社是は「世の中に必要なものこそ栄える」ですが、確かにその通り。それぞれの会社が社会的な役割を果たせなくなってしまうたら、その会社は世の中から退場してもらえないのです。

2. 社員の幸せ

会社で働いている社員を幸せにすることも、当然、会社の目的のひとつです。「幸せ」という、ちょっと青臭い表現を使いましたが、これは「物心両面」の意味。雇用を維持し、生活できるだけの給与を支払うことはもちろんですが、それだけではありません。仕事を通して、「やりがい」を感じたり、自己成長できたり・・・こうしたことも、「幸せ」を実現するための重要な要素です。

3. 株主への還元

株式会社である以上、利益を創出してスポンサーである株主に還元することも大きな責任です。親族だけで経営している会社には、「株主＝親族」というところも多いですが、特に、上場企業の場合には、その責任が果たせなくなったら、やはり世の中から退場するしかありません。

4. 取引先との共存共栄

世の中の会社には単独で仕事を完結している会社は存在しません。どんな会社でも、仕入先や、販売先があるのです。そうすると、当然、「自分の会社さえ良ければ」ということは通用しません。取引先をパートナーとして考え、共存共栄を果たすこと。これも会社にとっての大事な目的です。

5. 国・地方への納税

道路、空港、通信網・・・
会社は、事業を行うために、様々な公共物を活用しています。それを管理・運営している国や地方自治体に対価を支払うことは当然のこと。国や地方が発展すれば、結局は自分の会社の事業も発展することにつながります。

いかがですか？

皆さんは、こうしたことをどの程度、意識して仕事をしていましたか？
くどいですが、皆さんは、こうした目的を果たすために働いているのです。

「何のために働いているのか？」

よく「ベクトルが合っている」と言いますが、社員の方々の意識が揃っている会社は強いです。「原理原則」がしっかりしているので、経営者の意思決定や、社員の方々の行動がブレません。だから、いろいろな会社で「経営理念」を作成し、会社の目的を明確にするのですが、正直言って、それが浸透している会社はほんのわずかです。皆さんは、自分の会社の「経営理念」を暗唱できますか？
「あることは知っていますが・・・何だったっけ？」
そういう人が多いのではないですか？

参考までに、シャープの経営理念を紹介しましょう。
上記の「会社は何のためにあるのか？」が、明確にされています。

<シャープの理念>

- ①いたずらに規模のみを追わず、誠意と独自の技術を持って、ひろく世界の文化と福祉の向上に貢献する。
- ②会社に働く人々の能力開発と生活福祉の向上に努め、会社の発展とひとりひとりの幸せとの一致を図る。
- ③株主、取引先をはじめ、全ての協力者との相互繁栄を期す。

ちょっと待て！ 「利益」は目的じゃないの？

研修の中で「会社の目的は？」という質問をすると、よく、「利益を確保すること！ 儲けること！」という答が返ってきます。
ハッキリしておきましょう。

「利益」は、会社の目的ではありません。 「利益」は、会社の目的を果たすための「絶対条件」です。
当然、会社にとって「利益」は必要です。

利益が無ければ、社員や株主に還元することはできないし、社会貢献のための投資もできないでしょう。
しかし、利益が会社の中で「目的化」されることほど、危険なことはありません。

例えば、雪印ブランドが無くなる決定打になった「食肉偽装事件」。

輸入牛を国産肉と偽れば、高く売れるので、利益は増えます。

しかし、それって「会社の目的」から見てどうなのか？

「世のため、人のためになる」という目的から見れば、明らかに間違っています。

まさに「本末転倒」そのものです。

「利益を確保するのは、会社の目的を果たすため」

会社の中で、常に、こうした意識を徹底することが必要です。

「『会計の基本』というタイトルの割には、まどろっこしい話をしているな・・・」

そう感じる人も多いかも知れませんね。

焦らない、焦らない。

実はこうした「会社の目的」と、社員ひとりひとりの「会計の知識」はつながっているのです。

「ん～～～ よく分からない・・・」

でしょうね。

ということで、続きは次回。